



喜多流自主公演

平成二十八年十二月

平成28年 12月18日(日)

12:00開演(11:00開場)

十四世喜多六平太記念能楽堂

料金:全席指定(税込)

S席 9,000円 A席 8,000円 B席 7,000円

C席(1階棧敷席) 6,500円 D席(2階席) 6,500円

学生席(2階席) 2,500円(25歳以下、要学生証提示)

- ・午前11時15分より、本舞台にて当日の演目の解説をいたします。お気軽にご参加ください。
- ・当日券をご用意できる場合は午前10時45分より発売いたします。

主催:公益財団法人 十四世六平太記念財団

協力:喜多流職分会

後援:品川区、品川区教育委員会

助成:文化庁(平成28年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業)



自然居士 友枝 真也
 梅枝 栗谷 明生
 車僧 大島 輝久

チケット予約購入のご案内

インターネット

喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>
(24時間対応、要登録・無料)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

② 喜多能楽堂事務局 窓口

クレジットカードでお支払いの上(ホームページでのweb決済)、ご予約の際に画面に表示された番号を窓口にご提示いただき、チケットをお受取りください。現金でのお支払いはできません。

電話予約

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上、チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

② 郵送

チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振込みください。入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

③ 喜多能楽堂事務局 窓口

ご予約の際お伝えした番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金のみとなります。

窓口

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

お支払いは現金のみとなります。

※お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。ご予約の際ご案内いたします。

※ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

ご注意

- ・開演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・ロビー・見所での飲食はできません。2階ラウンジをご利用ください。
- ・喜多能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。コインロッカーもご利用ください。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

喜多流自主公演年間優待券

5枚綴り 35,000円

- ◆ご希望のどの席種でもお選びいただけるお得な年間優待券です。
- ◆お求めは喜多能楽堂事務局まで。各喜多流職分でも承ります。
- ◆ご観能の際は別途、座席指定券をご予約ください。
 - ・追加料金はかかりません。
 - ・ご予約は、インターネット、電話、窓口で承ります。
 - ・年間優待券のみでの観能はできません。
 - ・ご入場の際は、年間優待券と座席指定券をご提示いただきます。
- ◆ご利用は、表記年度中(4月～3月)の喜多流自主公演のみ有効です。青年能には使用できません。

自主公演観客席御案内



S席	9,000円	C席(1階棧敷席)	6,500円
A席	8,000円	D席(2階席)	6,500円
B席	7,000円	学生席(2階席)	2,500円

会場案内図



JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分。目黒駅西口よりドレメ通りを直進。杉野学園体育館手前を左に入る。

※当能楽堂は駐車場施設がございませんので、お車でのご来場はご遠慮願います。

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9

TEL: 03-3491-8813 FAX: 03-3491-8999

喜多能楽堂ホームページ: <http://kita-noh.com/>

子方少年 内田利成

シテ自然居士 友枝真也

自然居士

ワキ人商人 大日方 寛

ワキ連人商人 御厨 誠吾

アイ雲居寺門前の者 野村 万蔵

能

大鼓 安福 光雄
小鼓 森 貴史

笛 小野寺 竜一

後見 友枝 昭世
内田 安信

地謡 友枝雄太郎 谷 大作
谷 友矩 中村 邦生
塩津 圭介 大村 邦定
高林 昌司 友枝 雄人

狂言

萩大名

シテ大名 野村 萬

アド太郎冠者 野村 虎之介
小アド茶屋 野村 万蔵

休憩(二十分)

能

後シテ富士の妻の霊
前シテ里女

栗谷 明生

梅枝

ワキ旅僧 森 常好

ワキ連徒僧 野口 能弘

ワキ連徒僧 野口 能弘

アイ住吉の里人 能村 晶人

大鼓 亀井 広忠
小鼓 大倉 源次郎

笛 松田 弘之

後見 香川 靖嗣
松井 彬

地謡 狩野 祐一 栗谷 充雄
佐藤 寛泰 金子 敬一郎
佐々木 多門 栗谷 能夫
佐藤 陽 内田 成信

休憩(十分)

仕舞

放下僧

小唄

金子 敬一郎

地謡 佐藤 寛泰
大島 政允
栗谷 幸雄
塩津 圭介

能

後シテ天狗
前シテ山伏 大島 輝久

車僧

ワキ車僧 館田 善博

アイ愛宕山の溝越天狗 河野 佑紀

大鼓 亀井 洋佑 太鼓 小寺 真佐人
小鼓 田邊 恭資 笛 栗林 祐輔

後見 塩津 哲生
佐藤 章雄

地謡 友枝雄太郎 高林 呻二
谷 友矩 長島 茂
栗谷 浩之 出雲 康雅
高林 昌司 狩野 了一

附祝言

終了予定時刻 五時頃

自然居士(じねんこじ)

京都の雲居寺の造営の資金を募るために、自然居士が説法を行って
いると一人の少年がやってくる。その少年は両親の追善供養をして
もらおうと小袖を捧げてくるが、そこに荒々しい人商人がやってき
て、少年を連れ去ってしまう。少年が小袖を手に入れるために、人商
人に身を売ったのであると察した自然居士は、説法を切り上げて人
商人の後を追う。やがて琵琶湖の天津で舟を出しかけていた男達に、
小袖を返すので少年を戻してほしいと頼む。しかし人商人は、少年を
返す代わりに舞を舞ってくれというので自然居士は様々な舞を舞う。
そしてついに少年を取り戻し都へ帰ってゆく。

(約六十五分)

萩大名(はぎだいみょう)

長らく在京した田舎大名が帰国の前に、太郎冠者の案内で、ある庭園
に萩の花見に出かける。太郎冠者は和歌を所望された場合を予想し
て、聞き覚えの一首「七重八重九重とこそ思ひしに十重咲き出づる萩
の花かな」を大名に教えておこうとするが、大名は覚えられない。そ
こで、太郎冠者は一句一句物になぞらえておき、その場でひそかに合
図を送ることを決めておく。庭園に着いた大名は、庭の景観をほめる
にも失言を重ね、肝心の歌もしどろもどろで、あきれた太郎冠者は途
中で退散してしまう。

(約三十分)

梅枝(うめがえ)

身延山の僧が諸国行脚の途中に摂津国住吉でにわか雨にあい、近く
の家に宿を借りた。家の中に舞樂の太鼓と舞の衣装が飾られている。
不思議に思いその謂れを尋ねると、主の女は哀れな物語を始める。昔
この国の天王寺に富士という楽人があり、同じく楽人の浅間と内裏
の管絃の役を争っていた。互いに都に上ったが富士がその役を賜つ
たため、浅間の恨みをかい富士は討たれてしまった。富士の妻は夫の
死を歎き悲しみ太鼓を打って心を慰めていたが、遂に死んでしまつ
たと語り、僧に回向を頼んで姿を消します。(中人)僧達が説経をし
ていると、舞樂の衣装を身につけた富士の妻の霊が現れる。夫の形見
の太鼓を打ちながら様々な舞を舞って夫への恋しさを訴える。やが
て執心も晴れて富士の妻の霊は消えて行くのだった。

(約九十五分)

車僧(くるまぞう)

いつも牽く牛がない破れ車で往来しているので「車僧」と呼ばれて
いる僧がいた。雪の嵯峨野、西山の麓に着き、車を留めて雪景色を眺
めていると山伏姿の愛宕山の天狗、太郎坊が現れる。太郎坊は車僧
に、現世の苦惱、輪廻の境地からまだ脱却していないのではないかと、
と禅問答をしかけ魔道に誘い込もうとする。しかし車僧に軽くあし
らわれると太郎坊は、我が愛宕山の庵室に来て魔道から悟りの道に
入れと言いつつ捨て、黒雲に乗って去る。(中人)アイ狂言の溝越天狗は
車僧を笑わせ隙をつくろうとするがこれも軽くあしらわれる。やが
て太郎坊は天狗の姿で現れ「魔道にも心を寄せよ」と誘惑しようと勝
負を挑む。しかし牽く牛もいないのに車を自在に操る車僧には叶わ
ず、何一つ太郎坊の思いのままにはならない。ついには車僧の法力に
恐れをなし、魔性を和らげ合掌して消えうせた。脇座に作り物の椅
子車を据え、車僧はその中で微動だにしない。自在な天狗の動きと静
と動の対比を見せる。

(約七十分)

平成二十九年 一月自主公演番組予告

平成二十九年 一月八日(日) 正午始
十四世喜多平太記念能楽堂

賀 茂 出雲 康雅
雲林院 香川 靖嗣